

Walker, Joseph C.

An historical essay on the dress of the ancient and modern Irish ; to which is subjoined, a memoir on the armour and weapons of the Irish.

Dublin, George Grierson, 1788. (文献番号3-184)

Hiler p.890

ウォーカー著

古今アイルランド人の服装史小論一付、アイルランドの甲冑・武器覚え書き

アイルランド人の服装史と、アイルランドの甲冑・武器の歴史的著述で、本文は、この2章がまったく別のものであるかの様に扱われている。Hiler には、1818年に J. Christie から出版された第2版が記載されている。これは2分冊で、本書にはない costume index が付されている。

著者ウォーカー（J. Walker 1761—1810）は、王立アイリッシュ学会、パース考古学者協会等の会員、特派員であった。ウォーカーは、本書の前半である服装史を、アイルランドの反英政治家チャルモント侯（1728—1799）に捧げている。ところが後半の甲冑・武器の記述は、モイラ伯爵夫人（1682—1739）に捧げている。彼女は博愛主義者として知られているし、モイラ伯の領地は、主にスコットランドからの移住者であるプロテスタントの住む地域であった。つまり、今に至るアイルランドと英国の紛争の初期的段階の時代に、その両方の立場にある二人に本書を捧げたことになる。ウォーカーは本書の中で、直接英国批判をしてはいないものの、17世紀の服装を語りながら、「イングランド人は、むりやり彼等（アイルランド人）の服をはぎとるかわりに、穏やかに民族服をやめさせ、（イングランドの服装と）同化させた」と述べている。この一行と、ダブリン生まれということからも、ウォーカーに反英意識があったことがわかる。

本書には13枚のプレートがあり、PL. 10 の一枚だけが彩色されている。前半には、古代から17世紀まで年代順に、服装・靴・頭髮・王冠・宝飾品などが描かれている。テキストでは、プレートではわからない服の形、大きさ、色、柄、素材、着方などが記されている。

ウォーカーは、自らの立場を、考古学者として、強く認識していたのだろう。本書で取り扱っているアイルランド人の服装、武器もすべて考古学的に捉えられている。時代の流れに沿った即物的解説には、それが人々にとってどうであったか、また、どのような意味があるのかには、ほとんど触れられていない。唯一、前述の17世紀のイングランド化の一行を見る程度である。巻末には、著者あての書簡のあとに、「アイルランドで発見された三種の古代遺物について」という付録がある。それぞれ推定の域をでない三種の遺物の図と解説があるが、こちらの図は本文のプレートに比べて、格別詳しく描かれている。 (室賀〈真〉)